

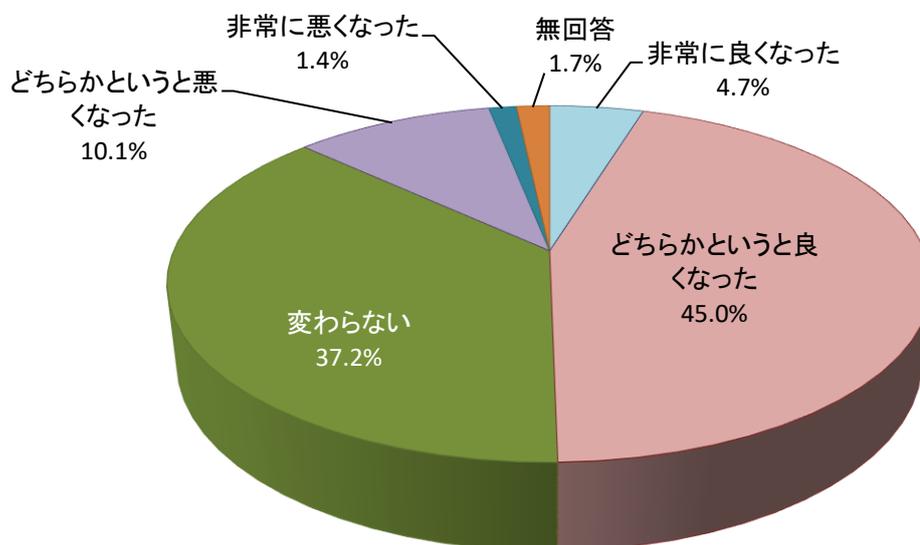
## 7. 宇都宮市の景観について

(1) 宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるか

◇ 「非常に良くなった」と「どちらかというと言良くなった」を合わせた【良くなった(計)】が約5割

問26	宇都宮市の景観は10年前と比べてどう変化したと感じますか。	(○は1つ)
		n=358
1	非常に良くなった	4.7%
2	どちらかというと言良くなった	45.0%
3	変わらない	37.2%
4	どちらかというと言悪くなった	10.1%
5	非常に悪くなった	1.4%
	(無回答)	1.7%

<図IV-7-1>全体



n=358

宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるかについて、「非常に良くなった」が4.7%、「どちらかというと言良くなった」が45.0%で、これらを合わせた【良くなった(計)】が49.7%であった。一方、「どちらかというと言悪くなった」10.1%、「非常に悪くなった」1.4%で、これらを合わせた【悪くなった(計)】は11.5%であった。(図IV-7-1)

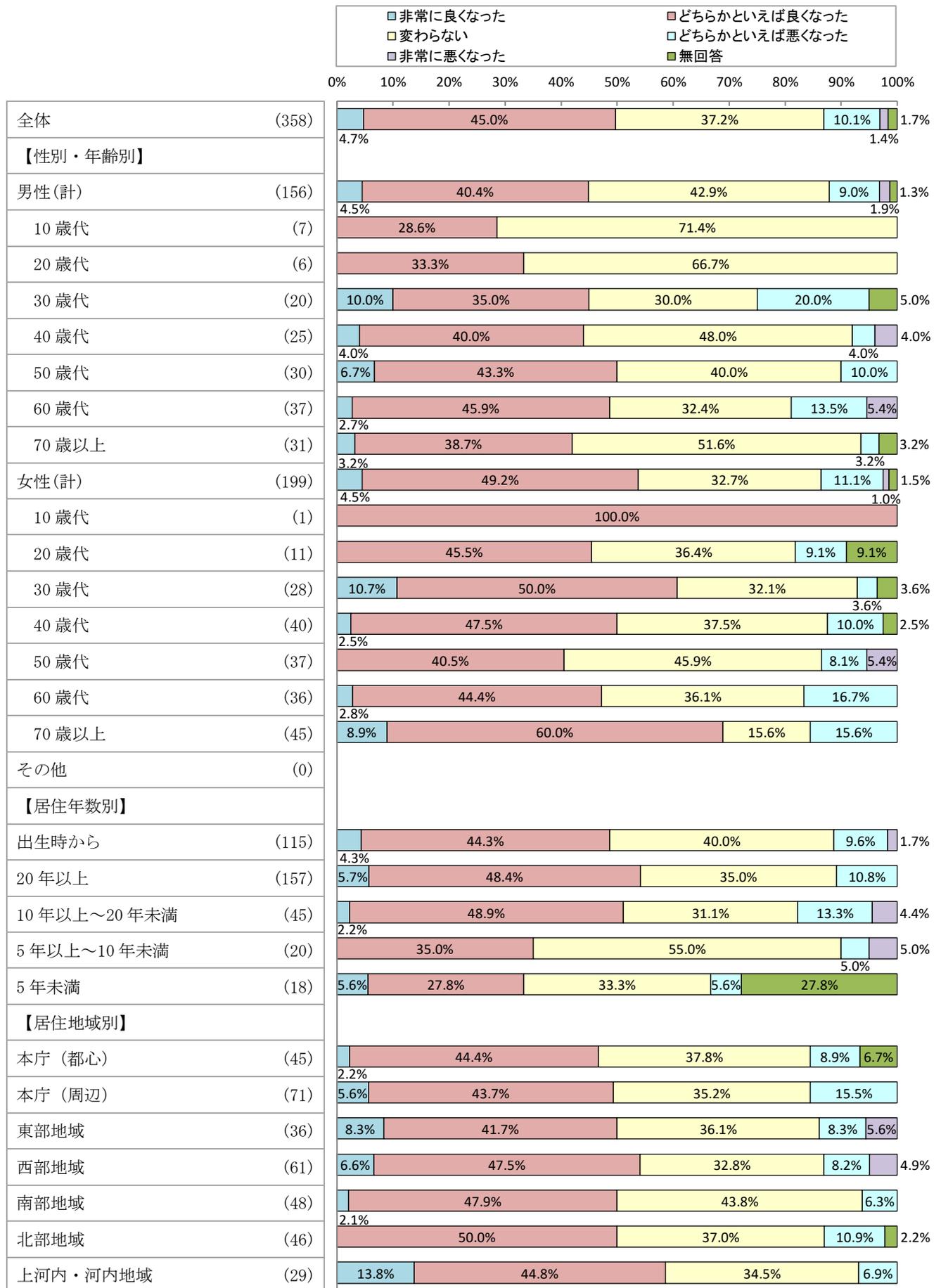
### <参考>

性別・年齢別でみると、【良くなった(計)】は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が68.9%であった。一方、【悪くなった(計)】は<男性/30歳代>が20.0%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が18.9%であった。(図IV-7-2)

居住年数別でみると、【良くなった(計)】は<20年以上>が54.1%で最も高く、次いで<10年以上~20年未満>が51.1%であった。一方、【悪くなった(計)】は<10年以上~20年未満>が17.7%で最も高く、次いで<出生時から>が11.3%であった。(図IV-7-2)

居住地域別でみると、【良くなった(計)】は<上河内・河内地域>が58.6%で最も高く、次いで<西部地域>が54.1%であった。一方、【悪くなった(計)】は<本庁(周辺)>が15.5%で最も高く、次いで<東部地域>が13.9%であった。(図IV-7-2)

<図IV-7-2>性別・年齢別/居住年数別/居住地域別

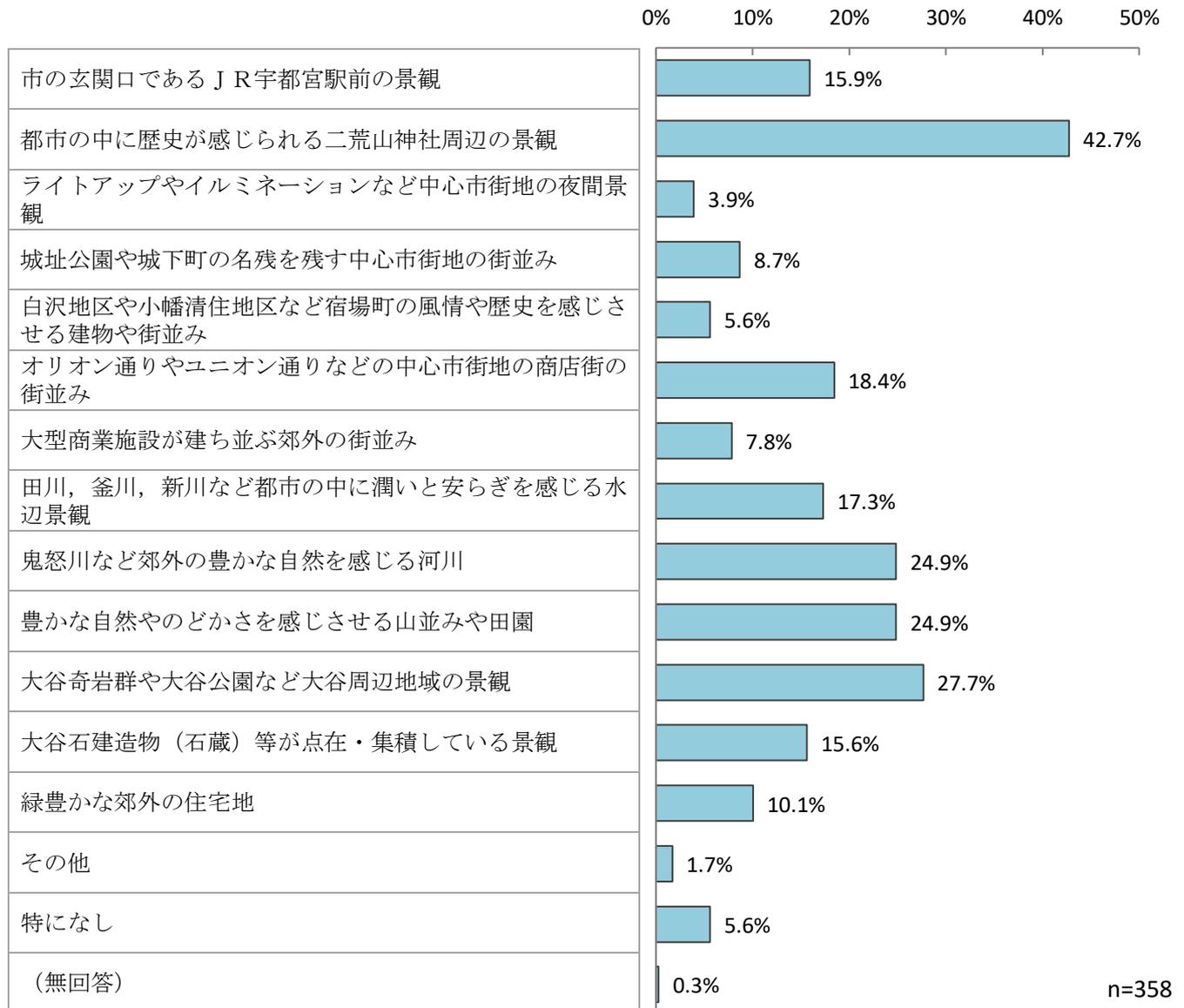


(2) 「宇都宮らしい景観」とは何か

◇ 「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」が4割強

問27 宇都宮市内で愛着や誇りを感じる「宇都宮らしい景観」は何ですか。		(○は3つまで)
		n=358
1	市の玄関口であるJR宇都宮駅前の景観	15.9%
2	都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観	42.7%
3	ライトアップやイルミネーションなど中心市街地の夜間景観	3.9%
4	城址公園や城下町の名残を残す中心市街地の街並み	8.7%
5	白沢地区や小幡清住地区など宿場町の風情や歴史を感じさせる建物や街並み	5.6%
6	オリオン通りやユニオン通りなどの中心市街地の商店街の街並み	18.4%
7	大型商業施設が建ち並ぶ郊外の街並み	7.8%
8	田川, 釜川, 新川など都市の中に潤いと安らぎを感じる水辺景観	17.3%
9	鬼怒川など郊外の豊かな自然を感じる河川	24.9%
10	豊かな自然やのどかさを感じさせる山並みや田園	24.9%
11	大谷奇岩群や大谷公園など大谷周辺地域の景観	27.7%
12	大谷石建造物(石蔵)等が点在・集積している景観	15.6%
13	緑豊かな郊外の住宅地	10.1%
14	その他	1.7%
15	特になし	5.6%
	(無回答)	0.3%

<図IV-7-3>全体



「宇都宮らしい景観」とは何かについては、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」が42.7%で最も高く、次いで「大谷奇岩群や大谷公園など大谷周辺地域の景観」が27.7%と続いている。（図IV-7-3）

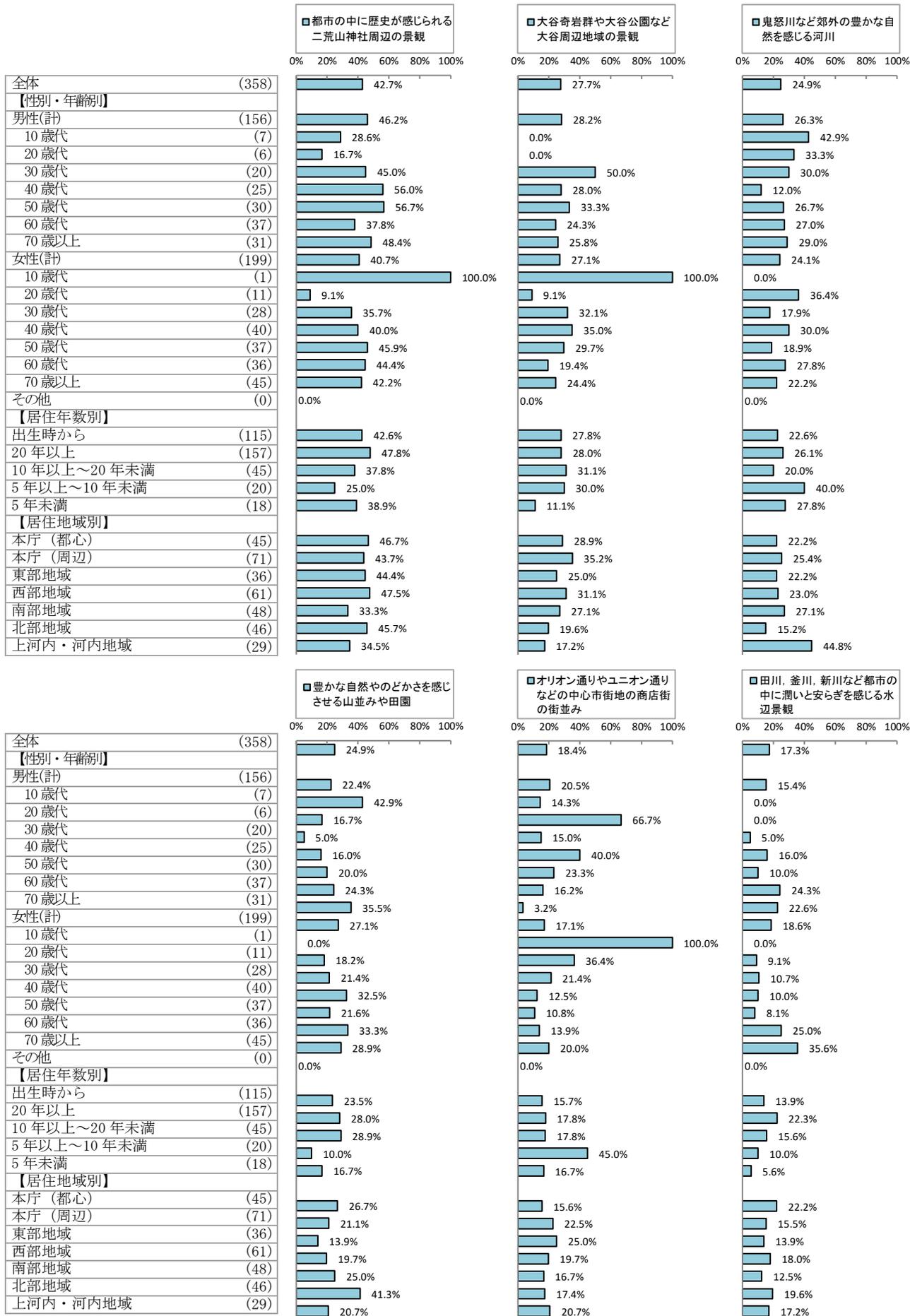
<参考>

性別・年齢別でみると、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/50歳代>が56.7%であった。「大谷奇岩群や大谷公園など大谷周辺地域の景観」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/30歳代>が50.0%であった。（図IV-7-4）

居住年数別でみると、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」は<20年以上>が47.8%で最も高かった。「大谷奇岩群や大谷公園など大谷周辺地域の景観」は<10年以上～20年未満>が31.1%で最も高かった。（図IV-7-4）

居住地域別でみると、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」は<西部地域>が47.5%で最も高かった。「大谷奇岩群や大谷公園など大谷周辺地域の景観」は<本庁（周辺）>が35.2%で最も高かった。（図IV-7-4）

<図IV-7-4>性別・年齢別/居住年数別/居住地域別

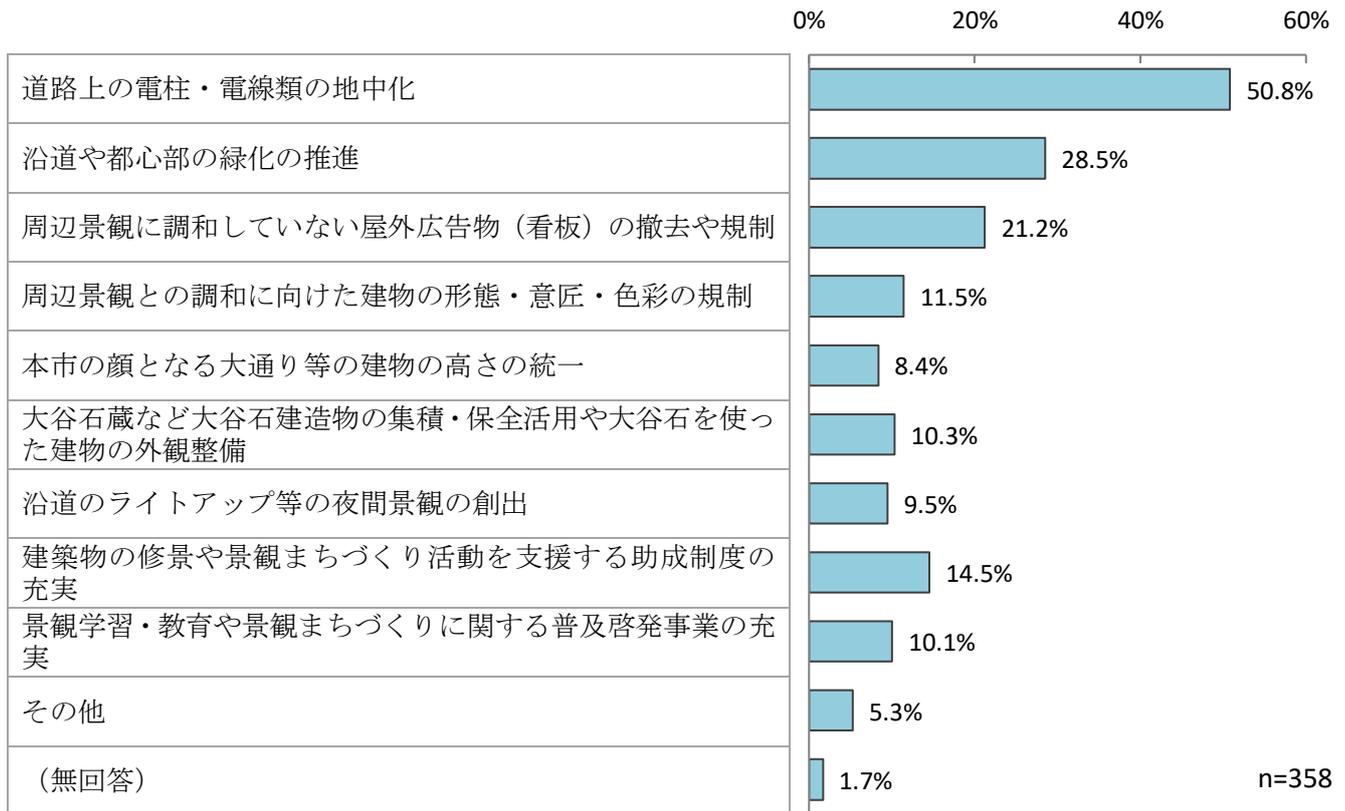


(3) 良好な都市景観の形成に必要なこと

◇ 「道路上の電柱・電線類の地中化」が約5割

問28	良好な都市景観の形成に必要なことは何だと思えますか。	(○は2つまで)
		n=358
1	道路上の電柱・電線類の地中化	50.8%
2	沿道や都心部の緑化の推進	28.5%
3	周辺景観に調和していない屋外広告物(看板)の撤去や規制	21.2%
4	周辺景観との調和に向けた建物の形態・意匠・色彩の規制	11.5%
5	本市の顔となる大通り等の建物の高さの統一	8.4%
6	大谷石蔵など大谷石建造物の集積・保全活用や大谷石を使った建物の外観整備	10.3%
7	沿道のライトアップ等の夜間景観の創出	9.5%
8	建築物の修景や景観まちづくり活動を支援する助成制度の充実	14.5%
9	景観学習・教育や景観まちづくりに関する普及啓発事業の充実	10.1%
10	その他	5.3%
	(無回答)	1.7%

<図IV-7-5>全体



良好な都市景観の形成に必要なことについては、「道路上の電柱・電線類の地中化」が 50.8%で最も高く、次いで「沿道や都心部の緑化の推進」が 28.5%と続いている。(図IV-7-5)

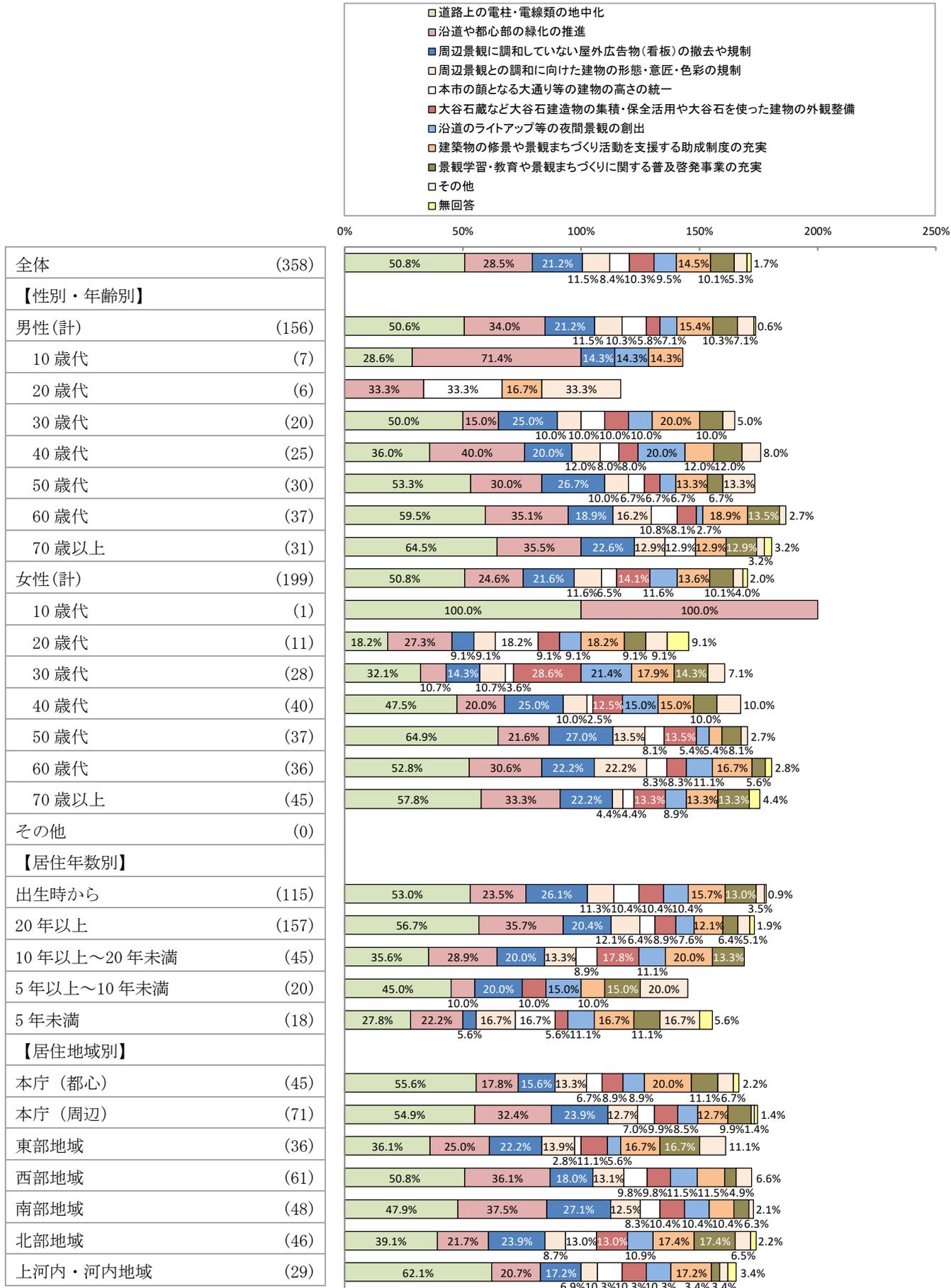
<参考>

性別・年齢別で見ると、「道路上の電柱・電線類の地中化」は<女性/10歳代>が 100.0%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が 64.9%であった。「沿道や都心部の緑化の推進」は<女性/10歳代>が 100.0%で最も高く、次いで<男性/10歳代>が 71.4%であった。(図IV-7-6)

居住年数別で見ると、「道路上の電柱・電線類の地中化」は<20年以上>が 56.7%で最も高く、次いで<出生時から>が 53.0%であった。「沿道や都心部の緑化の推進」は<20年以上>が 35.7%で最も高く、次いで<10年以上～20年未満>が 28.9%であった。(図IV-7-6)

居住地域別で見ると、「道路上の電柱・電線類の地中化」は<上河内・河内地域>が 62.1%で最も高く、次いで<本庁(都心)>が 55.6%であった。「沿道や都心部の緑化の推進」は<南部地域>が 37.5%で最も高く、次いで<西部地域>が 36.1%であった。(図IV-7-6)

<図IV-7-6>性別・年齢別/居住年数別/居住地域別

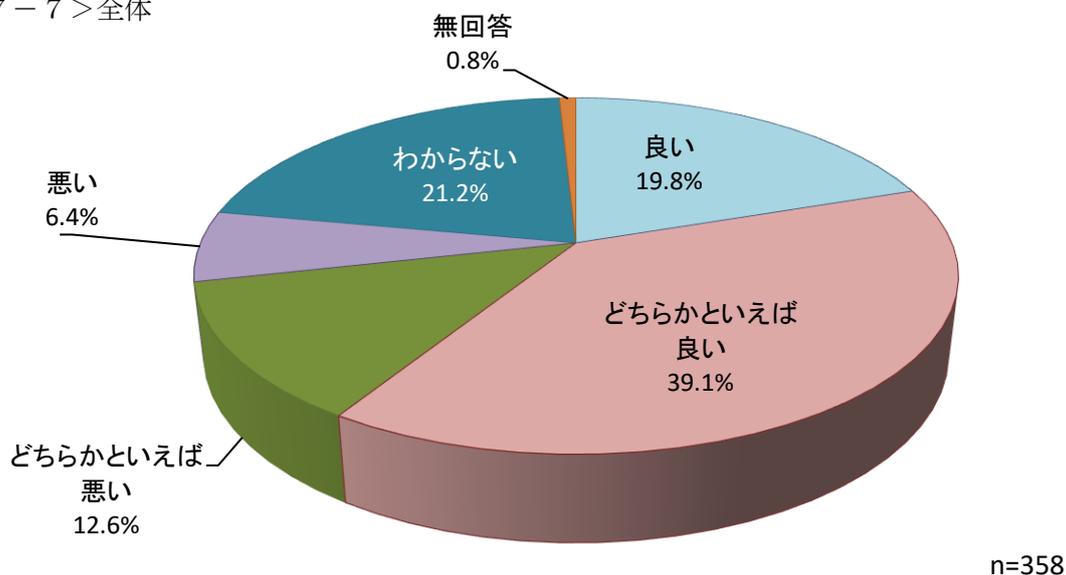


(4) 動画や静止画を表示する看板（デジタルサイネージ）の印象

◇ 「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせた【良い（計）】が約6割

問29 屋外に設置される液晶ディスプレイなどを利用して動画や静止画を表示する看板（デジタルサイネージ）について、あなたは、どのような印象をお持ちですか。（○は1つ）		n=358
1	良い	19.8%
2	どちらかといえば良い	39.1%
3	どちらかといえば悪い	12.6%
4	悪い	6.4%
5	わからない	21.2%
	（無回答）	0.8%

<図IV-7-7>全体



動画や静止画を表示する看板（デジタルサイネージ）の印象については、「良い」が19.8%、「どちらかといえば良い」が39.1%で、これらを合わせた【良い（計）】は58.9%であった。一方、「どちらかといえば悪い」が12.6%、「悪い」が6.4%で、これらを合わせた【悪い（計）】は19.0%であった。（図IV-7-7）

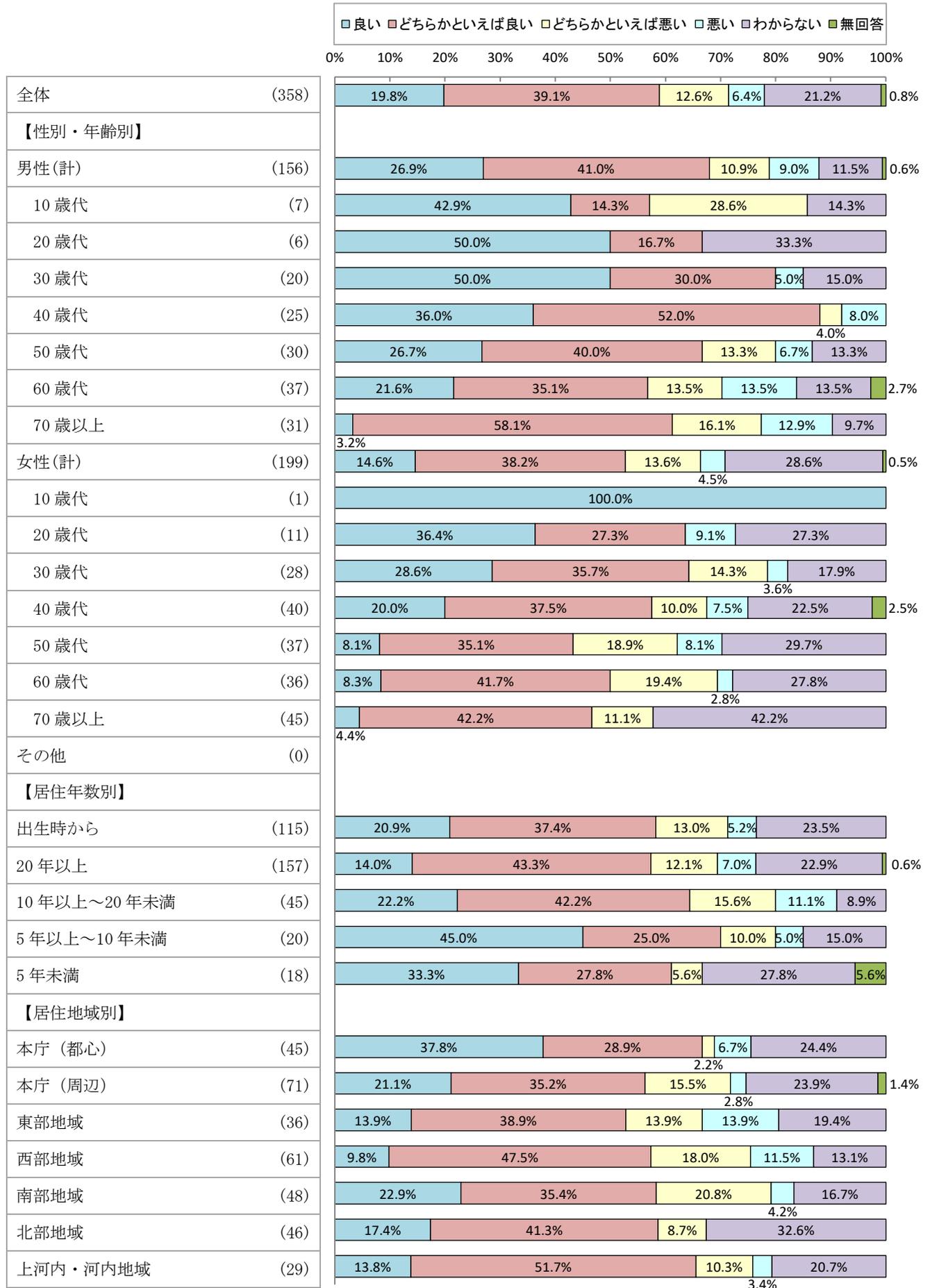
<参考>

性別・年齢別で見ると、【良い（計）】は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が88.0%であった。一方、【悪い（計）】は<男性/70歳以上>が29.0%で最も高く、次いで<男性/10歳代>が28.6%であった。（図IV-7-8）

居住年数別で見ると、【良い（計）】は<5年以上～10年未満>が70.0%で最も高く、次いで<10年以上～20年未満>が64.4%であった。一方、【悪い（計）】は<10年以上～20年未満>が26.7%で最も高く、次いで<20年以上>が19.1%であった。（図IV-7-8）

居住地域別で見ると、【良い（計）】は<本庁（都心）>が66.7%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が65.5%であった。一方、【悪い（計）】は<西部地域>が29.5%で最も高く、次いで<東部地域>が27.8%であった。（図IV-7-8）

<図IV-7-8>性別・年齢別/居住年数別/居住地域別

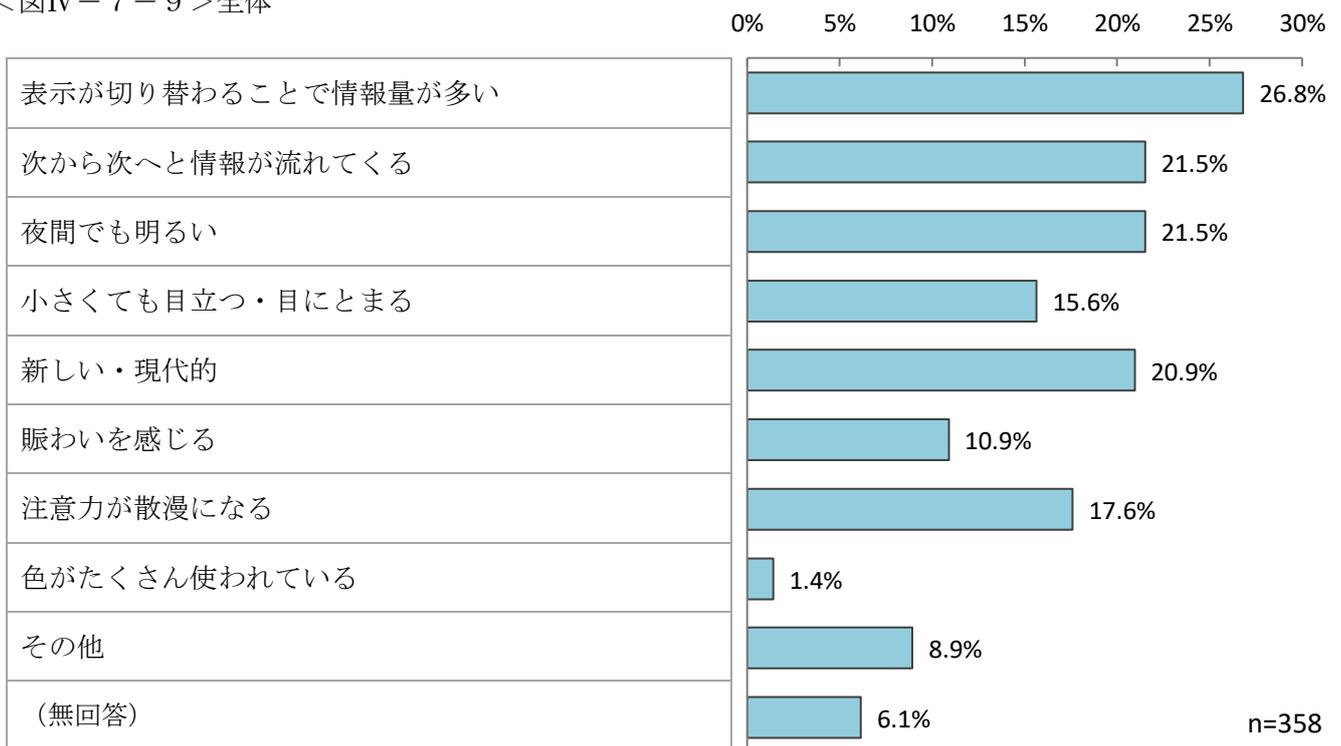


(5) 看板 (デジタルサイネージ) に感じる点

◇ 「表示が切り替わることで情報量が多い」が3割弱

問30	問29でそのような印象を持たれたのはどういう点についてですか。	(〇は2つまで)
		n=358
1	表示が切り替わることで情報量が多い	26.8%
2	次から次へと情報が流れてくる	21.5%
3	夜間でも明るい	21.5%
4	小さくても目立つ・目にとまる	15.6%
5	新しい・現代的	20.9%
6	賑わいを感じる	10.9%
7	注意力が散漫になる	17.6%
8	色がたくさん使われている	1.4%
9	その他	8.9%
	(無回答)	6.1%

<図IV-7-9>全体



看板 (デジタルサイネージ) に感じる点については、「表示が切り替わることで情報量が多い」が 26.8% で最も高く、次いで「次から次へと情報が流れてくる」、「夜間でも明るい」が 21.5% と続いている。(図IV-7-9)

<参考>

性別・年齢別で見ると、「表示が切り替わることで情報量が多い」は<男性/30歳代>が 50.0% で最も高く、次いで<男性/10歳代>が 42.9% であった。(図IV-7-10)

居住年数別で見ると、「表示が切り替わることで情報量が多い」は<出生時から>が 31.3% で最も高く、次いで<5年以上～10年未満>が 30.0% であった。(図IV-7-10)

居住地域別で見ると、「表示が切り替わることで情報量が多い」は<上河内・河内地域>が 48.3% で最も高く、次いで<本庁(都心)>が 31.1% であった。(図IV-7-10)

<図IV-7-10>性別・年齢別/居住年数別/居住地域別

